

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	International Conference on Plant Cell Wall Biology 2021 (国際植物細胞壁生物学会議)
演題名	INVOLVEMENT OF ANAC071 AND ANAC096 ON THE WOUND-INDUCED CAMBIUM AND XYLEM FORMATION IN INCISED ARABIDOPSIS FLOWERING STEMS.
発表者	<u>Keita Matsuoka</u> 1, <u>Ryosuke Sato</u> 1, Yuki Matsukura 1※, Yoshiki Kawajiri 1※, Hiromi Iino 1※, Naoyuki Nozawa 1※, <u>Kyomi Shibata</u> 1, Yuki Kondo 2, Shinobu Satoh 3, <u>Masashi Asahina</u> 1,4
	1 Department of Biosciences, Teikyo University, Utsunomiya, Japan 2 Department of Biology, Graduate School of Science, Kobe University, Kobe, Japan 3 Graduate School of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba, Tsukuba, Japan 4 Advanced Instrumental Analysis Center, Teikyo University, Utsunomiya, Japan
内容	<p>本研究会は、3年に一度、アジア・環太平洋地域で開催されている世界中の植物細胞壁研究者が集まる国際会議であり、今回はオンラインでの開催となった。</p> <p>本発表は口頭発表に選出され、傷ついたシロイヌナズナの花茎では、傷によって蓄積したオーキシシンによって誘導されるANAC071・ANAC096と呼ばれる転写制御因子が働き、茎の内部にある木部や髄組織の柔細胞と呼ばれる細胞から、維管束幹細胞として働く形成層細胞に似た性質の細胞が誘導されること、これらの遺伝子の機能は、移動できない植物が傷害に対する自己治癒力を向上させるために獲得した生存戦略のひとつである可能性であることを報告した (Matsuoka et al.2021 ; <a href="https://doi.org/10.1038/s42003-021-01895-8">https://doi.org/10.1038/s42003-021-01895-8</a>)。本研究の一部は、科学研究費補助金、私学事業団特別補助 (大学間連携等による共同研究)、先端総研チーム研究助成金による支援を受けて行ったものである。</p>